



市史へんさん

第 269 号

令和 3 年 8 月 1 日
小松市史編纂担当
へんさんだより

史上初の延期と言う大きなチャレンジの中で、東京 2020 オリンピックが、先月 23 日に開幕しました。幾多の大きな災害とコロナ禍での困難や苦しみを乗り越え、皆がともに前に進み、開催に到りました。オリンピックのモットー「より速く、より高く、より強く」は、1894 年に、クーベルタン男爵により提案されましたが、今回、この大会で初めて「一緒に」が加わりました。開会式当日、会場中央に「Faster, Higher, Stronger」に加え、「Together」の文字が映し出され、世界が更に連携するよう呼び掛けられました。この精神に則って、アスリートが競技に挑むその姿から大きな感動と励みが伝わってきます。こうした熱い思いを心の糧にして、私たちも希望に満ちた明日に向かって、手を取り合って前向きに進んで行きたいと願っています。

近現代史に見る国際交流



今回のオリンピックでも、当市がホストタウンになり、様々な国の選手を受け入れ、応援していますが、こうした国際交流について、当市はどのように築き上げてきたか、行政サイドからその歴史を紐解いてみましょう。

市制 30 周年を迎えた昭和 45 年(1970)、時に大阪万博(EXPO' 70)が開催され、国民は多くの国々の文化に触れ、国際化社会に向かって希望に満ちあふれた頃でした。当市でも、国際化時代に対応すべく、青少年に国際感覚を身に付け、視野を広めようと、「青年海外派遣事業」を実施しました。第 1 回の派遣団では 5 人の青年が選ばれ、10 月 4 日から、タイ、マレーシア、中国、香港を訪問し、現地青年との交流を行いました。



海外へ飛び立つ飛行場を有する地の利を生かし、自衛隊基地との「併存」で、同 36 年 6 月に「小松飛行場」が開庁され、翌年より大阪、名古屋、東京に向けて定期便が就航されました。やがてジェット化が進むと、国際化の方向が打ち出され、48 年には最初のチャーター便が香港へ飛び立ちました。こうして、国際線の定期就航に向け、59 年 4 月に「国際線新旅客ターミナルビル」が完成し(写真左)、「小松飛行場」から「小松空港」へと名称を変更し、発展を遂げました。

海外との交流が活発化する以前は、開発移民として、ブラジルを始め、海外に移住し、成功を収めた日本人も少なくありません。こうしたこともきっかけとなり、また、当市の基幹産業を担う(株)小松製作所(現(株)コマツ)の工場建設を予定していた縁もあって、47 年に、ブラジルスザノ市と姉妹都市の提携が結ばれました。(写真下)

この提携により、海外都市との文化や教育、行政などの交流を深め、国際理解を高めようと、その後、49 年にベルギービルボード市、平成 3 年(1991)にイギリスゲイツヘッド市、同 20 年に中国済寧(済南)市の 3 市と姉妹都市の提携を行いました。

提携後の交流として、市制 40 周年の昭和 55 年に、スザノ市・ビルボード市両市長夫妻を記念式典にお招きしました。市制 50 周年では、国際化フォーラムを実施し、姉妹都市合同の「市民美術展」を開催しました。また、姉妹都市提携 10 周年を記念して、ゲイツヘッド市から英国式庭園の「ゲイツヘッド友好の庭」が贈られ、市役所前に築園されました。20 周年記念では、逆にソフトウェル公園に、枯山水式日本庭園「小松友好の庭」を造園し、その後も青少年の教育交流、書籍の相互寄贈など、現在も活発に行われています。



この他にも、友好都市として中国桂林(ケリン)市、韓国昌寧(チャウネ)郡、ロシアアングラスク市、台湾彰化(ショウカ)市、スウェーデンウメオ市、ドイツカイザースラウテルン市、カンボジアシェムリアップ州と文化、スポーツ、教育の交流ばかりでなく、経済・産業の面からも、技術派遣など重要な役割を果たしています。

『新修 小松市史 資料編 17 考古』第8章「太平の世へ」の見どころ

第8章では、江戸期以降の遺跡を取り上げ、小松城跡と城下町遺跡である大川遺跡、そして再興九谷として江戸後期に開窯した若杉窯、八幡若杉窯を紹介する。

特に、この章で注目されるのが大川遺跡で、北国街道に面した町屋敷の様子がわかる遺構が発見されて、話題となった。街道の両脇には、短冊形の町屋敷が連なり、その町屋敷跡から古九谷窯製品がまとまって出土したことから(写真右)、焼物商の存在が想定され、九谷製品が販売されていたことが明らかとなった。



また、この遺跡は梯川下流域の低地に立地し、当時、その入口には、城下に入る橋(「小橋」と言う)が架けられていたが、その橋台石垣が発掘され(写真左)、凝灰岩の切石を積んだ構造であることが判明し、小松町の玄関口にふさわしい堅固な造りであったことがわかった。

前田利常の入城に伴い、町割の整備が始まり、その状況の一端がこの遺跡から知ることができる。一方、小松城本丸・二の丸の発掘も小松高校改築等に伴い、最近発掘調査が進み石垣の基部や井戸が地中に存在することが確認された。

この他、再興九谷を代表する若杉窯を取り上げ、特に、天保7年(1836)の火災により、隣接する八幡村に窯を移したことを示す紀年銘入りの碗が出土し、発掘資料からも「天保7年」移転説を裏付けた。

<7月の活動状況>

- ・ 7月15日(木) 通史(近世)部会
- ・ 7月17日(土) 蓮台寺関係聞き取り調査
- ・ 7月22日(木) 蓮代寺町虫送り調査
- ・ 7月28日(水) 小松旧記他市内近世文書調査
- ・ 7月28日(水) 丸山町山村生活聞き取り調査

『新修 小松市史 資料編 17 考古』DVD付

定価 5,100円

販売所 市史編集担当・うつのみや・明文堂書店

<8月の活動予定>

- ・ 8月4日(水) 通史(中世)部会
- ・ 8月7日(土) 通史(近現代)部会

<8月のカレンダー> 開室時間 10:00~12:30/13:00~17:00(火~土)

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	9/1	9/2	9/3	9/4

* は閉室しています。開室時間は、図書館の開館時間に合わせてあります。上記以外の時間も含め、御用のある方は、9時から17時まで受け付けていますので、下記にご連絡ください。

小松市史編集担当(小松市立図書館2階)

- ・ 住所 〒923-0903 小松市丸の内公園町19 芦城公園内
- ・ TEL 0761(24)5315 ・ FAX 0761(22)9763
- ・ E-mail hensansitu@city.komatsu.lg.jp
- ・ URL <https://www.city.komatsu.lg.jp/soshiki/toshokan/shishihensan/index.html>

